

新潟ジュニアドクター育成塾

R4.8.9 No.2

入塾式

マスタープログラムの第4期生として42名の受講生が入塾しました。入塾式は3年ぶりに対面式で実施しました。全県から集まる受講生が受講可能となるオンラインの良さを活かし、サテライト会場を新潟大学附属長岡中学校に設置するとともに、自宅からのオンライン参加も可としました。新潟大学牛木学長からは、新型コロナウイルス感染症を例にウイルスや細菌の研究の歴史について触れながら、新潟ジュニアドクター育成塾では知識を学ぶだけでなく科学の面白さを実感し、科学の将来の担い手となって欲しい、とのお話がありました。

オープニングレクチャー：「トキの野生復帰と佐渡の里山」 永田 尚志先生（佐渡自然共生科学センター）



オープニングレクチャーでは、新潟大学佐渡自然共生科学センターの永田尚志センター長から、トキの野生復帰と佐渡の里山についてのお話がありました。受講生からは、トキは現在1年間で何羽くらい増えているか、今後何羽くらい増やしたいと考えているかなどの質問がありました。8月19日（金）には、佐渡を訪れて、ビオトープに棲む生物を採集し観察する予定です。佐渡の自然（植生・動物・水田の生物など）とトキの野生復帰に向けた取組の関連性から、自然と人の共生について考える大きな一歩を踏み出すことができそうな予感がしています。

科学基礎講座（物理）：「望遠鏡を作って宇宙の不思議を調べよう」 浅賀 岳彦先生・大村 彩子先生（理学部）

「宇宙の不思議なこと」「望遠鏡で夏の夜空を調べよう」をテーマに学びました。宇宙の大きさを、身の回りの長さや距離から考えていくことから始まりました。徒歩や自転車、車の速さに比べ、光は圧倒的に速いこと。その光でも宇宙の果てまで数百億光年かかることから、宇宙がとてつもなく大きいことを実感しました。次に3つの点を描いた風船を膨らませる実験から、星の遠ざかる速さは距離に比例することを学びました。



後半は、受講生が自作した望遠鏡を使って観測できる夏の星空について学びました。月や木星、アンドロメダ銀河、ペルセウス座流星群、北極星、プレアデス星団などの見つけ方や観測方法についてわかりやすく解説してもらいました。講座を通して、「ジュニアドクター育成塾だけでなく、中学・高校・大学と進んでいく中で皆さんが取り組むべき課題はたくさんある。」「自分で体験して自分なりの感動を見出すことを是非実行して欲しい。」との浅賀先生のメッセージが印象的でした。

※この取組は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)による「ジュニアドクター育成塾」事業（2019年度～2023年度）に採択されています。